

第582号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2017年 9月16日
 発行責任者 喬木村公民館 長 徹
 市 瀬 公民館 編集部 長 志
 編集責任者 仲田 久
 印刷 龍共印刷株式会社

第二十回 椋文学夏期講座

「椋十文学が今熱い話」を聞いて

詩的で鮮烈なロマン・不屈で明るい生命への賛歌

講師：児童文学作家 中 繁彦 氏

去る八月二十日(日) 椋十記念館にて、椋文学夏期講座が開催され、村内外から四十名ほどの皆さんが熱心に受講されました。

今年も椋十の没後三十年。そして夏期講座も二十回という節目の年を迎えました。講師の中繁彦先生は、椋十文学を生んだ源は、詩情をそそる伊那谷の少年時代であると語っています。

母との思い出を書いた「すつとび小僧」を全員で群読し、その詩情を耳から味わってもらおうスタイルで講座が始まりました。



飯田中学時代、天竜川の渡し船を待っている時に、二年上の大沢先輩から聞いたというカールブツェの詩の朗読。

天竜川の川原で出会った「山窩」の入浴風景の話。正木ひろし先生からももらった『セガントーニ』の本など、椋の幼少期を育んでくれたふるさと喬木の自然と人との出会いを通して、文学への開眼につながるいくつかのエピソードを盛り込みながら、「詩」から出発し、「山窩小説」を書き、さ

らには「動物文学」へとたどりついた椋文学の軌跡について分かりやすく、熱く語っていただきました。

『生きておったんな!』のエッセイは、昭和三十二年頃、講演で豊橋まで来た椋十が、急に思いついて遠山の星野屋を訪ねるという話。



今年も中先生に椋文学の魅力を語っていただきました

扱いたいとお話があり、たまたま記念館制作中だった大型紙芝居を、お披露目を兼ねて上演しました。

後半では、親交の深かった『椋十の本』編集者であり、理論社会長の小宮山量平先生の「追悼のことば」を全員で群読しました。

母校の喬木第一小学校でNHK教育テレビの授業を収録した半年後の、昭和六十二年十二月二十六日、病

第二回 平和学習会について

「クロがいた夏」

二島 賞子

平和学習会が行われた七月三十一日は最高温度を更新するのではないかと思うほど、日中は照りつくす太陽に熱中症を心配しながら過ごすような日でした。

午後七時から、映画「クロがいた夏」を観ました。このアニメは、はだしのゲンで知られる中沢啓三さんの作品です。

戦争中に飼っていた子猫との体験をもとにしたものですが、作品を観てこの作者はとも猫が可愛かったのだなということを感じました。捨てられている子猫を見て飼いたいと親にせがむ子供はいつの時代も同様です。

この作品は戦時下です。人々の食料は配給でした。そんな食べ物が無い時代だから、猫の餌は姉と弟が沼で魚を釣り、与えています。カラスからこの少女によって命を守られ飼われることになった子猫は成長し、家族の中で愛されていきます。しかし広島にも何か不気味な空気が漂ってきていました。

不安を感じている矢先、八月六日の朝カラッと晴れた空に大きな戦闘機が一機飛びました。その日、空襲警報は鳴りませんでした。原爆が落ちました。一瞬に

して広島は火の海と化し焼けただれた人々が水を水と叫びさまよい歩いています。

この一家四人は何か命を取り留めました。猫のクロはと探そうとしますが、こんな状況では命は無理だよと父親に諭されます。でもクロは少女の考えた、もの時の場所は防空壕という約束通り、そこで亡くなっていました。命の重さは人間も動物も同じです。愛するものを失った悲しさが痛いほど伝わってきました。



戦争は、ふたたび繰り返してはならないと思ひ、このすばらしい作品を鑑賞できたことに感謝しました。暑い毎日のなか参加してくださった皆様ありがとうございます。

精神的にも肉体的にも松風になりたい日本の村々に人たちが小さい、小さいよろこびを追っかけて生きているああ美しいああ美しい夕方の家々の窓のあかりのようだ

喬木村駅伝大会参加申し込みについて(お知らせ)

第29回 喬木村駅伝大会を10月29日(日)に行います。
 午前9時に運動公園グラウンドをスタートし、上平トンネル、小川、役場、伊久間、阿島を通り、運動公園までの七区間約15.7kmです。

参加資格につきましては、村内に住んでいる方及び村出身者、村内事業所に勤務する方、小学生4年生以上の児童生徒となります。

参加を希望される方は、分館、事業所、学校、友達等でチームを作ってください、10月18日(水)までに教育委員会窓口にあります用紙にてお申込ください。多くの方のご参加をお待ちしております。

喬木村公民館 電話33-2002



紙芝居「生きておったんな!」に見入る参加者の皆さん

この詩は「アルプスの丘公園」にある碑に刻まれ、没後三十年の今でも、私たちに、椋の郷里に寄せる思いを語りかけているようです。

「ふるさと」の合唱とともに、この詩を朗読して夏期講座のまとめとなりました。

椋十記念館館長 大原文男

あの時

八月は戦争や平和について考えることが多い。六日は広島に原爆が投下された日、今年も原爆投下された日、今年も原爆死没者慰霊式、平和祈念式に参加させていた。九日は長崎に原爆が投下された日、十五日は終戦記念日、悲惨な戦争を振り返るきっかけとなっている。

今年も原爆投下、終戦から七十二年目を迎えた。戦争を知らない世代が増え、心配されるのは戦争の忌まわしい体験の風化である。当然私も戦争を知らない。実体験のない私にとって、戦争は遠い昔のことのような感覚があるが、決して遠い昔のことではないのだ。

広島、長崎に投下された原子爆弾の威力は想像を絶するものであった。科学技術が飛躍的に伸びた今、核兵器を使用するような戦争が起こってしまう。地球は人の住めない星になってしまう可能性があるのである。北朝鮮は大陸間弾道ミサイルの発射実験を繰り返しており、緊張はますます高まっている。二十九日の朝、Jアラートの警報音と大音量の防災無線で飛び起きた。何事が起こったのかと思った。テレビを付けると北朝鮮がミサイルを発射したことを報じており、北海道、東北、甲信越地域に警報が流れたことが分かった。心配しているだけでは済まなかった。北朝鮮のミサイル攻撃を想定した対応マニュアルを作り、広く関係者で共有しておくべき時がやってきてしまった。子どもたちはもちろん、地域の方々の安全が確実に確保できる方策を工夫したいものだ。(館長)

平成29年度 成人式 おめでとう! 羽ばたけ、ふるさとへの思いを胸に!



新成人53名が出席し式典がとり行われました

八月十五日、平成二十九年度喬木村成人式が防災センターを会場に開催されました。今年度の対象者は六十六名（男性二十六名、女性四十名）で、その内五十三名の方が出席されました。

式典では、村歌を斉唱した後、市瀬直史村長の式辞があり、来賓を代表して、下岡幸文村議会議長、市瀬悦孝教育委員長より、それぞれお祝いの言葉をいただき、新成人の皆さんは、成人として気持ち新たにしていました。

また、新成人代表二名による意見発表では、それぞれが今頑張っていることや、これからの決意等について発表がありました。

午後からは、新成人の皆さんで組織する実行委員会主催による祝宴が行われ、中学校の恩師や友人との久しぶりの再会に、写真を撮影し合ったり、思い出話や近況報告をし合ったり、幾重もの笑顔の輪ができていました。

新たに成人になられた六十六名の皆さんが、それぞれの道で大きく飛躍され、喬木村の将来にとって大きな力となることを期待します。

式典の中で行われました意見発表等を紹介いたします。

本日の成人式にあたり、盛大な式典を挙行され、私どもの門出をお祝いくださいます。新成人一同を代表して心より御礼申し上げます。

また村長をはじめ来賓の皆様から温かいお祝いとお励みのお言葉をいただき新成人としての喜びを噛みしめると同時に、今後の重大さを痛感しております。私どものなかには、すでに実社会に入り働いている者もございいますし、学業を継続中の者もございいます。

しかし、置かれた状況の違いはあれ、今日から皆様方のお仲間入りをさせていただきますことになりました。皆様から頂いた意義深い教訓を胸に刻み、社会という大海に船出していきたくと思



あいさつ 実行委員長 湯澤悠人

本日は私たちのためにこのような盛大な式典を催していただき、誠にありがとうございます。

小中学校という多感な時期を共に過ごした同級生と成人式を迎えることができ、とてもうれしく思います。

また、この日を迎えることができたのは、市瀬村長をはじめ地域の皆様のご支援があったからです。心より感謝申し上げます。

中学卒業からもう五年半、自分が喬木村に住んでいた期間よりも長い時間が過ぎたことに気が付き、時の流れの早さにただただ驚くばかりです。光陰矢の如しという言葉の意味を身をもつ



成人式を迎えて 齋藤充哉

今感じています。

わたしは現在、京都にある大学で鍼灸師を目指して医学の勉強をしています。

人の身体というのは、うなるほど美しくロジカルな仕組みがあるかと思えば、どうしてこんな不便で迂遠な構造になっているのかと首をひねるようなものもあり、たくさんの疑問に突き当たりながら机に向かう日々です。

そして、自分がこの世に生を受けながらも不自由なく生きてきたことに感動を覚えます。数多ある病因や疾患に負けずに健康に生きるというのは難しいことであると勉強すればするほど実感します。

歳を取るといことは死に近づくということでもあります。昔は人間五十年と言いますが、私たちが五十年で人生の折り返し地点という短いものでした。

現在は男女ともに平均寿命が八十歳を超え非常に長くなっていますが、後悔のない人生を送れるよう、日々精進していくことには今も昔も変わりがないと思えます。また、二十歳だからと楽観的には考えず何事も全力でやってみようが大切だと痛感します。

そのために私たちは、今という瞬間を大切にこの長い人生をしっかりと踏みしめていきたいと思います。

そして私も、また五十年後に皆でこうして集まり談笑することができるよう、医学のさらなる発展のために頑張っていきたいと思えます。

まだ至らぬ点も多いかと

本日は、私たち新成人のためにこのような成人式を催していただき誠にありがとうございます。

この喬木村で共に育った仲間たちと成人式を迎えることができ本当に嬉しく思っています。

この日を迎えることができたのは村長さんをはじめ登下校を見守り、行事など様々な場面で支えてくださった地域の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

ここ、喬木村でみんなで机を並べ勉強をしていた私たちも早いもので二十歳を迎え、仕事に打ち込んでいる人、学生として勉学に励んでいる人など様々です。

今は歩んでいる道は様々ですがみなそれぞれにこの喬木村での思い出が沢山あると思えます。



成人式を迎えて 小山洋平

きれいな夕焼けを絵に描き、運動会では元気に声を出し校庭を駆け回り、日々合唱に打ち込んだ小学校。文化祭では協力し準備を行い成功させた時の達成感。部活動では何度しか何れ何度行っただけからない奉仕活動の数々と厳しかったですが、この厳しい部活動や自分たちで物事を進めていくことから、いつまでも子どもではないと教えられ大人への一歩をふみだした中学校。

友達と肩をならべて帰った帰り道、落ちていた柿などを投げ、田んぼのあぜ道を歩き、山をかけおり、何度したか数えきれない通学路違反など胸を張って言える事や今だから先生方や大人の方にも笑い話で聞いていただけると信じて聞いて出や、思い出を作ってきた仲間たちが大好きだということをお伝えします。

みんなになんと思われよ

うと私からの一方通行の思いであろうこの喬木村、仲間たち、思い出が私は大好きです。

さて、話を交えていただきますが私は愛知県専門学校で柔道整体系という接骨院などで働くために必要な資格を取るために勉学に励んでいます。

学生生活が一年をきり会社からの内定もいただいたのですが内定先が東京というところで先ほど熱く語らせていただきました大好きな喬木村に帰ってこれるのはまだ先になりますが帰ってこれるその日まで日々喬木村や喬木村の仲間たちを思いながら社会の荒波を乗り切っていきたいと思えます。

最後になりますがここまで導いてくださった先生方や地域の皆様、ここまで育て支えてくださった両親や家族に感謝の意を申し上げます。新成人代表挨拶とさせていただきます。



恩師と歓談

平成29年度 広島平和のバス運行事業報告

私たちの果たすべき責務は何か？

団長 市瀬 徹

八月五・六日、広島平和のバス運行事業に参加させていただきまして。五日の早朝、村民の皆さんから託された三万羽を超える折り鶴を受け取り、広島に向けて出発しました。台風の影響を気にしながら西に向かって行ったのですが、天気は崩れる様子はなく、どんどん気温は上昇してとても暑い二日間となりました。



平和式典参列後 原爆ドーム前にて



原爆の子の像にて 3万羽の折鶴と

八月五日、広島平和のバス運行事業に参加させていただきまして。五日の早朝、村民の皆さんから託された三万羽を超える折り鶴を受け取り、広島に向けて出発しました。台風の影響を気にしながら西に向かって行ったのですが、天気は崩れる様子はなく、どんどん気温は上昇してとても暑い二日間となりました。

折鶴の奉納を済ませ、次は広島平和記念資料館を見学しました。本館は工事中でリニューアルされた東館のみの見学でしたが、見学者が非常に多く、ごったがえしてしまいました。じっくり見学することはできませんでしたが、原爆の記録を見て、その恐ろしさと悲惨さは十分に感じることができました。三十年以上前になりますが、私は平和記念資料館を訪れたことがあります。展示されている写真や遺品を見ると、当時感じた衝撃が甦ってきました。また、当時の人々の苦しみや悲しみを思うと心が締め付けられ、いたたまれない気持ちになりました。「私たちが考えるべきこと、やるべきことは何か？」と問わずにはいられない気持ちになるのは私だけではないと思います。一人ができることは

極々僅か、でも、それが積み重なれば、多くの人が集まれば大きな力になると思います。どんなに小さなことでもいいから具体的な何かをやるのが大事だと改めて思いました。

核兵器禁止条約の締結促進の中心となって取り組んでほしいと訴えました。また、子ども代表の『平和への誓い』の結びでは、「一人一人の命の重みを知ること、互いに認め合うこと、まつすぐに、世界のみんなに届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。広島の子どもの私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます」と、力強く呼びかけました。核兵器禁止条約交渉会議に不参加だった日本政府、安倍総理がどのようなあいつをするかに私は特に注目していました。「唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向けた歩みを着実に前に進める努力を積み重ねていくことが私たちの責任だ」と述べましたが、核兵器禁止条約交渉会議に不参加だったという事実との矛盾に、私はむなしさを感じました。

原爆死没者慰霊式、平和祈念式終了後は、爆心地と折鶴の献納を終えて、明

折鶴の献納を終えて、明

折鶴の献納を終えて、明

核兵器禁止条約の締結促進の中心となって取り組んでほしいと訴えました。また、子ども代表の『平和への誓い』の結びでは、「一人一人の命の重みを知ること、互いに認め合うこと、まつすぐに、世界のみんなに届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。広島の子どもの私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます」と、力強く呼びかけました。核兵器禁止条約交渉会議に不参加だった日本政府、安倍総理がどのようなあいつをするかに私は特に注目していました。「唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向けた歩みを着実に前に進める努力を積み重ねていくことが私たちの責任だ」と述べましたが、核兵器禁止条約交渉会議に不参加だったという事実との矛盾に、私はむなしさを感じました。

核兵器禁止条約の締結促進の中心となって取り組んでほしいと訴えました。また、子ども代表の『平和への誓い』の結びでは、「一人一人の命の重みを知ること、互いに認め合うこと、まつすぐに、世界のみんなに届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。広島の子どもの私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます」と、力強く呼びかけました。核兵器禁止条約交渉会議に不参加だった日本政府、安倍総理がどのようなあいつをするかに私は特に注目していました。「唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向けた歩みを着実に前に進める努力を積み重ねていくことが私たちの責任だ」と述べましたが、核兵器禁止条約交渉会議に不参加だったという事実との矛盾に、私はむなしさを感じました。

核兵器禁止条約の締結促進の中心となって取り組んでほしいと訴えました。また、子ども代表の『平和への誓い』の結びでは、「一人一人の命の重みを知ること、互いに認め合うこと、まつすぐに、世界のみんなに届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。広島の子どもの私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます」と、力強く呼びかけました。核兵器禁止条約交渉会議に不参加だった日本政府、安倍総理がどのようなあいつをするかに私は特に注目していました。「唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向けた歩みを着実に前に進める努力を積み重ねていくことが私たちの責任だ」と述べましたが、核兵器禁止条約交渉会議に不参加だったという事実との矛盾に、私はむなしさを感じました。

核兵器禁止条約の締結促進の中心となって取り組んでほしいと訴えました。また、子ども代表の『平和への誓い』の結びでは、「一人一人の命の重みを知ること、互いに認め合うこと、まつすぐに、世界のみんなに届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。広島の子どもの私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます」と、力強く呼びかけました。核兵器禁止条約交渉会議に不参加だった日本政府、安倍総理がどのようなあいつをするかに私は特に注目していました。「唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向けた歩みを着実に前に進める努力を積み重ねていくことが私たちの責任だ」と述べましたが、核兵器禁止条約交渉会議に不参加だったという事実との矛盾に、私はむなしさを感じました。

核兵器禁止条約の締結促進の中心となって取り組んでほしいと訴えました。また、子ども代表の『平和への誓い』の結びでは、「一人一人の命の重みを知ること、互いに認め合うこと、まつすぐに、世界のみんなに届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。広島の子どもの私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます」と、力強く呼びかけました。核兵器禁止条約交渉会議に不参加だった日本政府、安倍総理がどのようなあいつをするかに私は特に注目していました。「唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向けた歩みを着実に前に進める努力を積み重ねていくことが私たちの責任だ」と述べましたが、核兵器禁止条約交渉会議に不参加だったという事実との矛盾に、私はむなしさを感じました。

核兵器禁止条約の締結促進の中心となって取り組んでほしいと訴えました。また、子ども代表の『平和への誓い』の結びでは、「一人一人の命の重みを知ること、互いに認め合うこと、まつすぐに、世界のみんなに届く言葉で、あきらめず、粘り強く伝えていきます。広島の子どもの私たちが勇気を出し、心と心をつなぐ架け橋を築いていきます」と、力強く呼びかけました。核兵器禁止条約交渉会議に不参加だった日本政府、安倍総理がどのようなあいつをするかに私は特に注目していました。「唯一の戦争被爆国として、核兵器のない世界の実現に向けた歩みを着実に前に進める努力を積み重ねていくことが私たちの責任だ」と述べましたが、核兵器禁止条約交渉会議に不参加だったという事実との矛盾に、私はむなしさを感じました。

世界遺産の原爆ドームを見学、そして、戦艦大和を建造した軍港、日本一の海軍工廠の町として栄えた呉の大和ミュージアムを見学して帰路につきました。渋滞等で予定より一時間ほど遅れましたが、全員無事に行っ

て来ることができました。最後に、このような学びの機会を与えてくださった村当局、広島平和のバス運行に関わってお世話いただいた多くの皆様に感謝し、報告とさせていただきます。

広島「平和のバス」旅を想う

副団長 櫻 井 登

喬木村広島平和のバス事業の一行三十五名は、八月五日、早朝五時三十分には役場庁舎前にて出発式を終え、市瀬村長ほかの皆様に見送られてバスは発車し、一路広島へと向かった。

八月六日「原爆投下の日」早朝に朝食を済ませてバスに乗り、平和記念式典に臨んだ。朝から強い日差しに照り付けられて、会場に用意された自治体席に着席し開会を待った。八時開会と同時に、本年新たに五千五百三十名の原爆死没者が名簿に加筆奉納された。

バス車中では、広島原爆投下に関する映像を見ながら、午後二時三十八分広島平和記念公園前に差し掛かる。バスは、西平和大橋を渡り切ると間もなく、平和の像(湯川秀樹像)を左手に見ながら左折し、祈りの泉と平和記念資料館(本館)の間を指示された場所に無事到着。バスから降車し、バスガイドの服部さん、事務局方の指示に従い歩き始める。

式辞、献花と続き、黙とう。平和の鐘で参列者は十万人余りの死没者の霊を慰め、悲惨な戦争を二度と起こさないことを心に祈り、誓った。広島市長から平和宣言が発せられ、放鳩された。続いて小学生の男女二人の子どもの代表による平和への誓いがあり、内閣総理大臣、広島県知事、国連事務総長のあいさつの言葉、最後「ひろしま平和の歌」(合唱)で幕を閉じた。ひろしま平和の歌は、前日のバス車中にて、バスガイドの服部さんの特訓指導があり、その成果を会場に届けることができた。

日差しは強く、かなりの高温の中を我々一行は「折鶴献納」へと足を進めた。原爆の子の像の隣に「折鶴」はガラス張りの献納庫に納められており、喬木村の折鶴は、中学生の手にやり、無事、献納されて安堵したところであった。が、十六年前、関西学院大学の男子学生により、十四万羽の折鶴が焼かれてしまった事件があったと聞く。残念至極だ。

式終了後、昨日の集合場所にて一行は集合し原爆ドームへと歩き始め、平和記念公園横の元安川を渡り、爆心地「島病院」前にて、改めてこの場所に投下されたのだということをお互いに両足で感じ取り、その両足ですぐ前の原爆ドームへと向かった。

折鶴の献納を終えて、明

初心者のジュニアの為の テニス大会

たかぎスポーツクラブ



たかぎスポーツクラブの選手が表彰台を独占！（レッドボールクラス）

八月二十日（日）、「たかぎスポーツクラブ」主催によるジュニアテニス大会『第三回南信ジュニアテニス普及大会』が開催されました。今大会は、レッドボールやグリーンボールという通常のテニスボールよりもスピードや弾みが小さく、ラリーが続きやすいボールを使った初心者の為の大会。小学一年生から六年生まで、三十九名が参加しました。初めて大会に参加する選手も多く、点数のカウント

を間違えたり、サーブの順番や位置を間違えることもあり、観戦していた保護者コーチはハラハラドキドキ。テニスはセルフジャッジの試合が多いため、今大会も選手の成長を期待して初心者の子ども達にもセルフジャッジで試合をしてもらいました。試合を重ねる毎にルールを覚え、ラリーが増えていく様子に、この大会の意義を感じる事ができました。

競技を始めるのが遅い子どもは、大会に出てもなかなか勝てないことが多いですが、こういった初心者向けのジュニア大会があることで、いつでも、誰でも、気軽にスポーツを始めることができ、なおかつ目標を持つことができます。今大会がきっかけとなり、選手達がさらに成長し、羽ばたいてくれることを期待しています。



たかぎスポーツクラブ所属の選手が見事2位！（グリーンボールクラス）

は、誰もが楽しく参加できるスポーツイベントをこれからも企画していきます。ぜひ注目ください。

お問い合わせは一般社団法人たかぎスポーツクラブ事務局（電話 〇八〇一四一 一七―三七八四）までお願いします。



※インターネットでは「たかぎスポーツクラブ」と検索してください。

たかぎ短歌会 長月歌会詠草

奥山のけわしき沢にしのび咲く村のシンボル九輪草やさし
忘れずに来る八月十五日怯まず伝えん悲惨な戦争
遠き日に「夕焼け小焼け」を手をつなぎ母と唄った故郷の路
判断の速い遅いは別として数独ゲームのマスを埋めゆく
七十二歳西半年ば過ぎゆくもまだまだ夫と生業励まん
目に入れても痛くないとふ曾孫のつぶらな瞳よ永久に輝け
はらからの絆たしかめ先祖は茄子と胡瓜に乗りて帰りぬ
力強くアリアを歌ふテナー歌手の分厚き胸をスーツは包む

多田 昭
毛涯百合子
小椋 りよ
大倉 知江
知久 美子
関島 春子
市瀬 准子
木林 睦枝

水を受けたる地の人思いつつ日照り続きに雨乞いをする
健やかに平和を祈る星まつり数多の短冊わが寮の軒
庭先に草取りおれば子雀がチュンチュン鳴いて励ましてくれる
帰省せし孫はカステラ土産にと盆の一夜は焼肉パーティー
照り返す歩道を帰る野球少年ユニホームの文字に吾子を重ねる
ふるさとの夏を彩るスターマイン盆踊りには恩師の顔も
膝つきて話し掛ける看護師に待合室の空気やはらぐ
遠き日に車窓に遙か嫁ぐ先は山のむこうの喬木村とぞ
「夏痩せに鰻とり食せ」家持の言ひたるけふは土用丑の日

内山 和子
壬生 千春
大村 初見
久保田 妙
木下 寿子
北澤 秀子
原 健彦
元島 康子
田中 妙子
福澤 亀人

第68回 喬木村盆野球大会結果表

ガチリーグ												親睦リーグ									
松島組						ベースボールキッズ															
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
RED BULL	田仲造園	なんくるないさオールスターズ	えつつかッゴ株式会社	クロバー	原カース	Amigo	昔はみんな野球部	尻ふり野球塾	ラブライブ！喬木	女王様の欲望	松島組	山下ドラゴンズ	中森高茂with T	70s	CAMEL	ブチトマト	アタックス野球倶楽部	Dameen's	ベースボールキッズ	喬木中学野球部	ダークホース
①運A	②運A	③運A	④運A	①運B	②運B	③運B	④運B	①運C	②運C	③運C	④運C	①中A	②中A	③中A	④中A	①中B	②中B	③中B	④中B	①中C	②中C



ガチリーグ優勝 松島組



親睦リーグ優勝 ベースボールキッズ

祝 第68回盆野球大会開催

ガチリーグ優勝 松島組
親睦リーグ優勝 ベースボールキッズ

第六十八回盆野球大会が八月十四日、十五日の二日間にわたり、運動公園グラウンドと中学校グラウンドで開催されました。昨年度から、主に若いチームで構成されるガチリーグと昔から参加していた主に親睦をメインとする親睦リーグの2つのリーグに分かれ、ガチリーグは十二チーム、親睦リーグは十チームが参加し熱戦が繰り広げられました。

激戦の末、ガチリーグは松島組が、親睦リーグはベースボールキッズが優勝を飾りました。結果は次のとおりです。

編集後記

息子の結婚にあたり、母が作ってくれた留袖を初めて広げてみた。お嫁に来る時は地味だなぁと思っていた柄が今、丁度良く、金の刺しゅうも素敵に輝いている。

母に留袖を見せても、金の帯の話を聞きたくてももうわからない。

結婚式への出席もしてはもらえないけれど、私が着付けてもらった姿は見せに行きたい。

